

吹上小学校だより 「 夢いっぱい 輝く瞳 光る汗 」 令和7年9月30日



神無月
No. 6

【知】進んで学びよく考える子 【徳】明るく思いやりのある子 【体】たくましくねばり強い子

雨だれ石を穿つ

校 長 野本 昌宏

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉のとおり、ひとごろの残暑もおさまり大変過ごしやすい時期となっていました。年度の折り返しとなり、教育活動を一層充実させていきたいと思います。

先日、本校の卒業生で、画家として活躍された須田剋太さんの展覧会が須田剋太展実行委員会の主催で行われました。本校の3年生が参観させていただくにあたり、私も展覧会を参観させていただくとともに、実行委員会のメンバーでもある柳毅さんによる須田剋太さんの伝記物語「剋太物語」を事前に拝読させていただきました。



吹上尋常高等小学校を優秀な成績で卒業し、熊谷中学校（現県立熊谷高校）へ入学したこと、3年生の夏に病気を発症し、軽井沢での2年間の病気療養を余儀なくされたこと、熊谷中学の卒業後は、東京美術学校入学を目指し絵の修行に明け暮れたものの4度受験に失敗したことなど傍から見れば順風満帆とはいがたい青年期を過ごしたのでした。

しかし、そこでくじけることなく、様々な人たちとの出会いの中から自分自身を成長させ、工夫や努力、挑戦、試行錯誤を続ける中で独自の芸術を作り上げていったのでした。

須田剋太さんの生き方に触れ、感銘を受けたのは、様々不遇なことがありながらも、よい作品を生み出したいという真摯な姿勢で、芸術と向き合っていたことです。「雨だれ石を穿つ」という言葉がありますが、小さな努力でも根気強く続けていけば成功することを体現された方ではないかと私は思います。

本校の卒業生でもある、須田剋太さんのように、工夫や努力を地道に重ねながら、根気強く続けていくことを大切にしていきたいと思います。